

NIKKEI PRINTING INC.

# 継

継承・継続・中継・後継

Kei

日経印刷 CSR アクティブレポート 2015.Jun

Vol.1

安定品質の継続が  
信頼と未来への扉を開く。

今日も  
本をツクル。



継  
Kei  
継承・継続・中継・後継  
Vol.1

僕が  
本で  
僕が  
本の  
チカラ。  
マナブ。  
ツクル  
ツクル



世界文化遺産  
プランタン＝モレトウス  
印刷博物館

# 印刷のチカラを 継承する

紀元前3000年。

日本はまだ縄文時代にあり、ようやく稲作農耕をはじめたころ、ギリシアのアテネにはすでに書物があり、本屋さえ存在していた。

哲学者プラトンの「ソクラテスの弁明」には、書物と本屋の価値を言い表したソクラテスの言葉が残されている。

「青年が私から学ぼうとすることなど、ただか1ドラクマも出せば本屋で買えるもの」

本を読むことで、人は、料理の腕を上げた。

人生について深く考えてみた。芸術に目覚めた。

外国の言葉をマスターした。おしゃれを身につけた。

文化や時代を彩る流行、新たな技術、語られる夢を広く共有できたのも、印刷物があったから。それが、印刷のチカラ。

日経印刷は今日も本を作る。



※イメージ画像です



## プランタン＝モレトゥス印刷博物館

アントワープ（ベルギー）にあるプランタン＝モレトゥス印刷博物館は、16世紀、ヨーロッパでもっとも有名な印刷所であった場所。今も印刷の創世記の姿をそのまま現代に残し、2005年には世界文化遺産にも登録認定された。世界で最も古いとされるプレス機、3万点の書物と写本、木版画1万5千、銅版画3千、インキュナブラ150、その他絵画やデッサンなどが保存される世界最大の印刷博物館である。

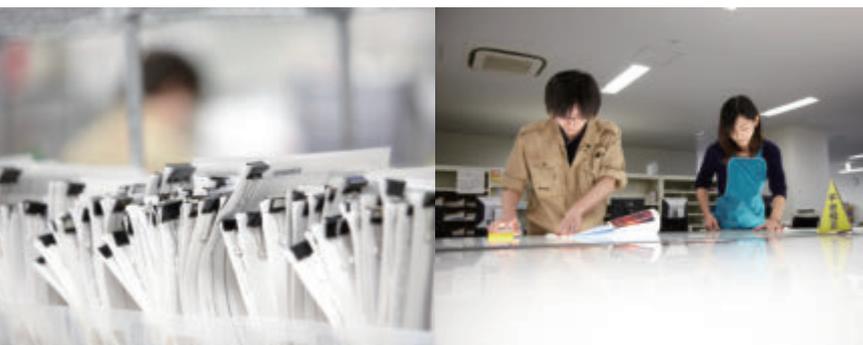
# より良くする活動を

# 継続する

印刷は装置産業だ。装置の最高スペックをいかに効率よくたたき出すか、その実現が私たちの最重要課題である。2005年から始めたNPS（日経印刷生産方式）活動。品質の向上、不良品の撲滅、生産効率の向上、短い時間で無駄なく良品をつくることが求められた。

現場にとっては、新しい業務が追加され、当初は目の上のたんこぶのような煩わしさから導入に強い抵抗もあった。これまで文書化されていなかった手順を文書化するなど社員にとっては、二階から目薬を注すような行為に思っていた。

しかし、実作業同様の評価を、この改善活動にも与えてもらえること、キャリアや年齢に関係なく、

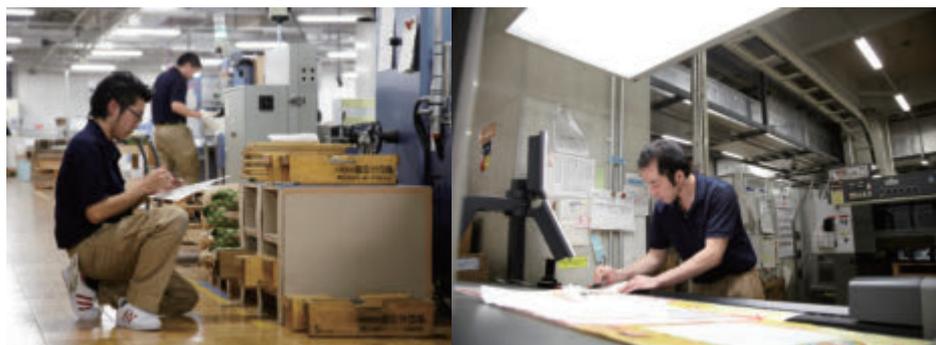




# 継続は 習慣 になる

改善の提案が妥当であれば、その提案者が中心となり改善活動を任されるのがモチベーションを高めた。若手のフレッシュな視点で古くからの様々な習慣に対する改善があり、ベテランもこれまでのルールを謙虚に見直す。提案件数や効率化を金額にして算出するなど、その数字の競い合いは自然に活性化していった。2年も立たないうちに、通常の業務として定着していった。

今ではこれが当たり前の姿。改善の継続が習慣となっている。NPS活動がそうであったように、CSR活動も、習慣となり、私たちの日々の業務の継続がそのままCSR活動であると、言えるようになりたい。



# 製版

に根付いた習慣



# 60人の部員が 共有する 600項目の 「手順書」

私たち製版部がこだわりを持って続けていることは、製品の品質向上と作業の標準化を実現すること。私たちが常に安定した品質を維持し、ご提供し続けることが、お客様の安心と満足につながるの考えのもと、作業環境の改善に日々取り組んでいます。

その取り組みのひとつが、約600項目にわたる作業手順を、それぞれにまとめた「手順書」です。これは、現場での実務を通して得たノウハウの中から、最も適切で効率的な方法・手順をデータベース化したもので、約60名のオペレーターが共有。全員が作業のガイドラインとして活用することで、作

業の標準化を図っています。

そのほかにも、想定できるあらゆるケースの判断基準をまとめた「判断基準表」、トラブル事例集、ハウスルールを整理した「イントラネット」の更新などによって、各スタッフの知識と技術を標準化し、品質の安定に努めています。

また、ものづくりの現場では、前後の作業工程と連携を図り、スムーズな流れをつくることも重要です。私たちは、ひとつの製品ごとに「作業カルテ」を作成。入稿データに関する細かい情報や更新の履歴を記録し、後工程のスタッフに引き継ぐことで、不良品の削減をめざしています。



製版部 G2 製版課  
主任  
松林 賢志

# 印刷に根付いた習慣





# 職人の「勘」を 文書化することで、 若手社員の 成長を促す

印刷では、紙のサイズや厚み、その紙が持つ特性に応じて印刷機の設定を変えなければなりません。その日の温度や湿度、インキがのる面積によって、パウダーや送風量を調整する必要があります。これらのデリケートな調整は、経験に基づく感覚に頼る部分です。

私たち印刷部では、こうした曖昧で複雑な部分を文書化するために、詳細データを収集。分析データを基にまとめたマニュアルによって、経験の浅いスタッフの成長促進につながっています。また、印刷機の種類によって異なる操作手順や細かい注意事項、過去のトラブル事例などと併せて情報を共

有することで、スタッフ全体のレベルアップに役立てています。

さらには、スタッフの多能工化も進めています。各自が担当する印刷機のオペレーション技術を高めることはもちろんですが、複数の印刷機の操作技術をマスターすることで、柔軟な生産体制の構築が可能になります。

印刷において、不良品が発生する原因となるのは、確認したつもりで作業を進めてしまうこと。ダブルチェックに加えて第三者による確認、さらには常に声を掛け合う習慣が印刷部の品質を支えています。



印刷部 G2印刷1課  
主任  
権名 一弥 (写真右)

印刷部 G2印刷1課  
主任  
大森 健一 (写真左)

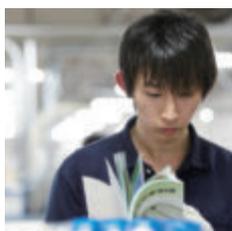
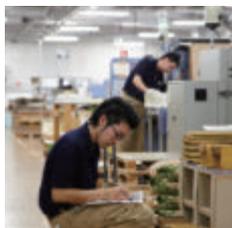
# 製本 に根付いた習慣



# ものづくりの

# アンカーとして、

# 仲間の思いを カタチにする



日経印刷では、お客様やお取引先様、近隣住民の皆様をお招きする工場見学会を実施しています。なかでも製本部では、「魅せる職場」をテーマに、真心込めた清掃を徹底。つねに紙屑ひとつ落ちていないきれいな職場を保ち、元氣よくお声掛けすることで、私たちのものづくりに対する姿勢を知っていただきたいと思っています。

自社技術の特徴や品質を直接見ていただくことで、お客様の信頼を高めるとともに、社員にとっては作業上の安全性向上にもつながっています。

また製本は、製版、印刷など、前工程のスタッフがきっちり仕上

げてきたパーツを本という完成形に仕上げる、最終工程となります。上流工程の仲間の思いを受け継ぐアンカーとして、細部にまで決して手を抜くことはありません。それは、出来上がった製品を包装する工程でも同じです。

納品後、お客様が最初にご覧になるのは、本が包装紙に包まれたもの。たとえ評価の対象ではないとしても荷姿の美しさにもこだわり、大切な製品に見えないリボンをかける気持ちで取り組んでいます。どんなに小さなことでも決して妥協せず、各自がこだわりを持って取り組む姿勢が、製本部の伝統なのです。



製本部 製本1課  
主任  
原田 謙太

# トップメッセージ

印刷の歴史を辿れば、その発明は今からおよそ650年前に遡ります。ドイツ人・グーテンベルグの発明した活版印刷技術は、羅針盤・火薬とともに世界三大発明に数えられるほど、文明に爆発的な変革をもたらしました。肉声を文字として紙に表現し、一つの原版から同一の複製物を作成することは、思想を広く伝え後世に遺すという意味で大変意義あることでした。

〓人の想いをカタチに〓

私どもは創業以来、「印刷」という情報伝達手段の技術向上に取り組み、「ものづくり」を通して社会に貢献することを使命としてきました。紙とインキを使い、人の想いを文字や画像で表現することは、情報伝達による文化の継承ともいえます。文字の重みを大切にするからこそ、私どもは「印刷」にこだわり続けています。

当社には、社員一人ひとりが真摯に仕事と向き合い、自ら現状の課題解決に取り組む「改善」の精

神が脈々と受け継がれています。

ものづくりにおける品質と生産性の向上を目的とした「改善」では、全部署全社員があらゆる業務・作業動作のムダを省き、作業の標準化を図りました。その結果、エネルギーのムダ削減にもつながりました。

「印刷」の未来を語るうえで重要なのは、我々の手でものづくりし、表現した情報は「資産」となり、その大切なお客さまの「資産」を「運用管理」させていただくことができるかです。今後は、資産化された情報の伝達手段として、オンデマンドによる小ロット印刷やIT技術との連携を視野に入れながら、みなさまの情報資産の価値向上に取り組んでいくつもりです。

私どもは、情報加工と印刷の技術を通して皆様との関わりを深めるなかで、「共感」を生み出すエンジン・アライングカンパニーとして、その可能性に挑戦してまいります。

今後とも変わらぬご支援・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



日経印刷株式会社  
代表取締役社長

志村和敏



# 継

Kei

真っ直ぐなモノづくりで

「出版」という文化事業を支え50年

それは、これからも変わらぬ

わたしたちの基本スタイル

「印刷」による社会への貢献を

真っ直ぐに貫いていきたい

 日経印刷株式会社

本社 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-15-5  
グラフィックガーデン 〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-7-16

TEL: 03-6758-1001 FAX: 03-3263-5814  
TEL: 03-6758-1000 FAX: 03-5392-6328

<http://www.nik-prt.co.jp>

日経印刷

検索 

2015.06.2500